

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント

外国語
(英語)

福島県教育委員会の平成25年度「学校教育指導の重点」で、授業改善のポイントについて解説されています。外国語(英語)について紹介しますので参考にしてください。

今後、会津教育事務所HP「教科の部屋(外国語)授業改善のポイント」コーナーで、具体的に触れていきたいと思います。

ポイント1 生徒の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

- 小学校外国語活動の内容や指導(活動)及び生徒の実態を踏まえ、入学当初の指導に配慮する。
- 学年間の関連、高等学校への接続を踏まえるとともに他教科や道徳の時間などとの関連を図る。
- 指導と評価の計画を作成し、外国語(英語)の目標を踏まえた各学年の目標の設定→生徒の実態及び教材の内容を踏まえた単元の目標の設定→評価規準の設定→目標を達成するための学習内容、活動の設定、言語材料の関連付け→評価方法・場面の設定などの整合性を図る。

ポイント2 学力向上を目指す授業の展開

- 「育てたい力」を明確にし、ねらいに沿った指導(手立て・活動)を行う。
- 言語材料について理解したり練習したりして知識を習得する活動と実際に言語を活用する活動とのバランスに配慮し、指導内容や活動などの配列を見直すなど単元構成や授業の展開の改善を図る。
- 文法事項はコミュニケーションを支えることを踏まえて言語活動と効果的に関連付ける。
- 教師と生徒、生徒同士のインタラクションを深めるとともに、個に応じた支援を充実する。
- 教育機器やネイティブ・スピーカー等を有効に活用する。
- 小学校外国語活動で使用している教材なども、指導内容や活動に応じて、適宜活用を図る。
- 新教科書使用に伴い、未習事項がないよう対応を図る。
- 高等学校での学習への円滑な接続を図ることも踏まえ、英語で授業を進める時間を増やす。

ポイント3 言語活動の授業への位置付け

- 生徒自身がテーマを選択したり考えや思いを伝え合ったりするなど、必然性や意味のある言語活動を設定する。また、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて活動させる。
- 4技能それぞれを高める学習活動及び技能を統合して活用する言語活動の充実を図る。
- 活動に当たっては、言語の使用場面や言語の働きを取り上げる。
- モデルの提示や作品を次の活動に生かすなどの工夫をしながら、「書く」活動を計画的・継続的に設定し、「書く」ことへの関心・意欲を高めたり動機付けを行ったりする。

ポイント4 評価の工夫改善

- 「評価規準に盛り込むべき事項」を踏まえ、「評価規準の設定例」等を参考にし、ねらいや活動に沿って具体的な評価規準を設定する。
- ねらいに沿った活動について、適切な場面・方法で評価を行い、評価の観点ごとの視点から判断する。
- 総括的な評価とともに、生徒の状況を見取る形成的評価も適宜取り入れながら授業を展開する。
- 4技能に関わる学習到達目標をCAN-DOリスト形式で設定することを進める。